

私たちが嵯峨谷の未来を考えました

フィールドワークで魅力発見

実際に現地へ何度も足を運び、嵯峨谷の魅力は「自然と緑の豊かさ」「人の温かさ」「自由な環境」だと感じました。



▲嵯峨谷をフィールドワークする様子

嵯峨谷の魅力を持続していくためには、この地に行きたい、住みたい、体験してみたいという求心力が必要です。多くの人に嵯峨谷を「知ってもらう」「好きになってもらう」ために、提案した一部を紹介します。

嵯峨谷ファンを増やす 未来プラン

こどもの国

高野口山村体験交流促進センター舞台付近を新しくデザインすることで、子どもが安全に楽しく遊べます。人が集まる場所として嵯峨谷のシンボルになります。



舞台 こどもの国

案内板



案内板は、嵯峨谷を訪れた人たちがとって最初に目に入る最も大切な情報源です。入り口を整えることによって、楽しく嵯峨谷を体験してもらうことができます。

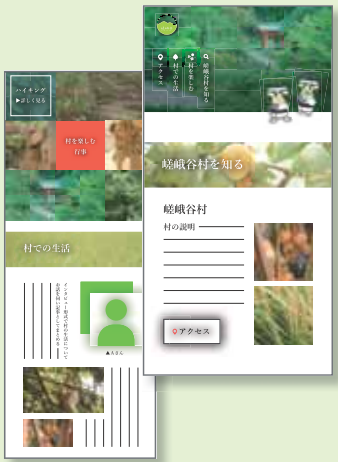
嵯峨谷マルシェ

嵯峨谷に既存の特産品、加工品を生かし、嵯峨谷の魅力、価値をさらに高める「嵯峨谷マルシェ」を作ります。「嵯峨谷マルシェ」として扱う商品のパッケージを学生がデザインすることで、嵯峨谷を知ってもらう機会が増え、ブランド力も高まることを期待します。



ホームページ開設

スマートフォンやパソコンを使用して情報収集する年代層は幅広く、インターネットを通じた情報発信は非常に効果的です。学生がホームページを制作し、嵯峨谷の温かさ、居心地の良さを伝えます。



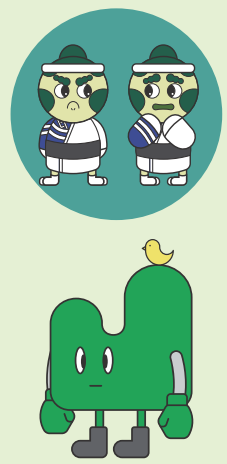
ロゴ制作

情報を発信する上で、嵯峨谷の魅力が伝わるイメージシンボルが必要です。自然などをイメージし、何パターンか考えました。



ゆるキャラ制作

「ゆるキャラ」はロゴとは別の価値があり、地域に愛着を持つってもらう象徴になります。展開の幅が広いことが特徴です。



学生代表者コメント

放送学科 田中樹さん

デザイン学科 森本帆南さん

嵯峨谷を実際に訪れ、柿や稲があつて自然豊かなところだと感じました。そのような魅力を実感してもらうためには、実際に嵯峨谷へ来てもらう機会を作ることが最も大切だと考えました。学科をまたぐ調整は初めての経験で苦労しましたが、みんなで力を合わせ、一つの企画を作り上げることがやりがいを感じました。



▲住民発表会の様子

住民の皆さんに向けて行った発表会では、私たちの考えた案が嵯峨谷の皆さんに受け入れられるか不安でしたが、真摯に清聴してください、貴重なご意見も伝えていただけだったので、本当に感謝しています。今後プロジェクトを継続し、将来的に嵯峨谷を訪れる人が増え、私たちの提案が活性化につながればうれしいと思います。

リアルな体験が 価値あるものに



大阪芸術大学 木村正彦教授

私が橋本市在住ということもあり、嵯峨谷を紹介する冊子の作成に協力することになりました。それから嵯峨谷をもっと盛り上げようという話になり、大学と相談の上、学生たちと一緒に協力して進めていくことになりました。新型コロナウイルスの影響があり、進行には苦労したものの、WEB会議などを通じて週に1回集まって話し合いを行い、最終的には良い提案を出してくれたと感じています。今回の活動では、学生たちがいつも受けている授業とは違い、相手の要望を聞くなど、現実の厳しさも感じてもらえるリアルな体験ができました。また、学業が役に立ち、世に出ることのすばらしさも感じてもらえたと思います。今後も継続して協働していくために、嵯峨谷で一軒家を借りて、学生たちが集まることのできるアトリエ「嵯峨谷キャンパス」をつくりたいと思っています。



でつながる
地域づくり

「隠れ里「嵯峨谷」を未来へつなぐ架け橋プロジェクト」では、大阪芸術大学の学生や卒業生、市内在住の関係者など、多くの皆さんの芸術的な感性を生かしながら地域づくりを行なっています。

今回の取組みを契機として、大阪芸術大学や県、関係者の皆さんとの連携をさらに深め、将来的には大阪芸術大学の学生たちが気軽に集まれる場所を整備する予定です。また、嵯峨谷の魅力を全国に発信することで、移住を促進し、地域の活性化を図ります。

今回の事業で関わった多くの皆さんとの「縁」を大切に、協力の輪を広げていくことで、橋本市全体の活性化にもつながると期待しています。

